

米倉教公の週間為替市場見通し

6/27 日週号

ドル/円予想レンジ 99.50 - 105.00 円

『英国 EU 離脱ショックの後遺症！』

■今週の市場動向：寝耳に水で大乱高下

前週のドル/円の週足では、上ヒゲ・下ヒゲの陰陽線引けとなった。週明けは、前週末の英 EU 離脱を巡る世論調査で残留維持派が上回ったことでドル買いが先行した。ただ、株安から上値を切り下げる展開となった。21日はイエレン FRB 議長の議会証言に目新しさがなく、特段材料視されなかったが、米長期金利が上昇したことでドル買いにつながった。22日は英国国民投票を控え 104 円台半ばで方向感を欠く展開。23日は英国国民投票当日の最新の世論調査で残留支持が優勢と伝わり買いが先行した。一時天候の悪化から投票率が低下するとの思惑から 104 円台前半まで売られるも、株高米長期金利上昇から一時 106.15 円まで上昇した。24日の開票では、残留派優勢との事前の予想が覆され、英国の EU 離脱が決定した。開票中に離脱派が優勢となるとリスク回避の円高が加速し、2年7カ月ぶりの 100 円割れを記録した。一巡後は急ピッチで値を下げた反動や協調介入への警戒感から 103 円台前半まで切り返したが上値も重く戻りは鈍く、102.10 円で終了した。

■来週の注目点：米 FOMC の利上げペースと日銀の追加緩和に回帰

今週の注目は、29日にイエレン FRB 議長がパネル討論会に参加する予定となっている。英国の EU 離脱を受け、ハト派的な意見が出た場合、ドル売り要因となりやすい。7月1日に4-6月期日銀短観が発表される。大企業製造業・業況判断は前回+6に対し、予想は+4と小幅悪化と見込まれている。先行きについては前回同様+3と見込まれている。日銀短観の悪化は7月27-28日の日銀の追加金融緩和への期待感が高まりやすい。また、7月会合前に円高進行が止まらなければ、日銀が臨時の金融政策決定会合を開催して前倒しで追加緩和策実施の可能性もある。英国の離脱決定が、EUの他国への連鎖につながる可能性や、再びスコットランドの独立運動再燃など、多くの火種がくすぶり続けることとなる。また、このところ堅調推移していた原油価格が週末大幅下落した。再び原油価格の下値模索の動きにつながると、産油国までも巻き込み、リスク回避の動きが必要以上に大きくなるリスクも残る。

■テクニカル的な見解

6月21日付のシカゴ IMM 投機筋の対米ドルの差し引き持ち高で、円は前週の+55,690から+52,296へと円の買い持ち高は前週から小幅に減少した。英国国民投票で EU 離脱が決定したことで、戻り基調から一気に下値模索の動きにつながった。パラボリック（パラメータ：0.08、0.3）では、売りシグナルから23日には買いシグナルとなったが、再び売りシグナル点減。MACD（パラメータ：12、26、9）でも、ゼロラインの下方から徐々に MACD が上昇していたが、再び下向きとなりシグナルとのかい離を拡大した。ストキャスティクス・スロー（パラメータ：14、3、3、20、80）では、売られ過ぎから上昇してきていたが、%Kに動きに変化が出てきた。急激な変動にオシレータが機能不全となりつつあることから、ダマシも増えてくるのでオシレータに頼った取引には注意が必要となる。



★先週の気になる出来事

昨日の英国国民投票の結果に当てはまる言葉は『大どんでん返し！』ではないだろうか？直前の世論調査でも残留派が多いとの報道で、ほとんどの市場参加者が残留という見方だったことから、そのショックは計り知れなかった。リーマン破綻時と比較するマスコミが多いが、大きな違いは金融機関が破たんしたわけではないので、残留に賭けていたポジションの巻き戻しが終了すれば短期的に落ち着くのではないだろうか？ちなみに英国の離脱がほぼ決定した際に『北斗の拳のテーマ曲』が流れたのは私だけだろうか。

商号：株式会社フジトミ

金融商品取引業者：関東財務局長(金商)第 1614 号

商品先物取引業者：農林水産省指令 22 総合第 1351 号,経済産業省平成 22・12・22 商第 6 号

加入協会：日本証券業協会、日本商品先物取引協会、一般社団法人金融先物取引業協会、

■くりっく 365 の売買手数料は 1 枚当たり最大でインターネットスタンダードコースが片道 0 円 (税込)、インターネットプレミアムコースが片道 648 円 (税込)、コンサルタント取引 (対面取引) コース及びコンサルタント取引 (対面取引) オンライン併用コースが片道 1,080 円 (税込) です。

■くりっく 365 における証拠金の額は、株式会社東京金融取引所が定める為替証拠金基準額で、原則週次で見直されます。その額は通貨ペアによって異なり、個人のお客様の場合最大で約 25 倍のお取引が可能です。

【くりっく 365－為替証拠金基準額の算出方法】

金融先物取引所が定める為替証拠金基準額は以下の計算式に基づき、算出致します。

計算式：為替証拠金基準額＝取引単位 (元本金額) ×4%× (5 取引日の為替清算価格平均値)

■「くりっく 365」には、以下のリスクがあります。

【価格変動リスク】

くりっく 365 は、取引する通貨の価格の変動に伴い差損が生じる場合があります、元本や収益が保証されるものではありません。建玉を維持するために追加で証拠金を差し入れる必要が生ずる場合があります。また、差入証拠金以上の損失が生ずる場合があります。

【レバレッジリスク】

くりっく 365 は、取引の額が預託された証拠金に比して大きくなるため、価格変動リスクその他のリスクがその比率に応じて増幅されます。レバレッジにより、その取引について必要となる証拠金の最大 25 倍までのお取引を行うことができます。

【信用リスク】

当社は、東京金融取引所を相手方とした「清算制度」に参加しており、お客様の証拠金は、全額取引所が区分管理しているため、原則として全て保全されています。しかし、当社の信用状況の変化等により支払いが滞ったり、破綻した場合には、返還手続きが完了するまでの間に時間がかかったり、その他不測の損失を被る可能性があります。

【システム障害リスク】

当社及び東京金融取引所のシステム、又はお客様、インターネット業者、東京金融取引所の間を結ぶ通信回線等に障害が発生した場合には、相場情報等の配信、発注・執行等が遅延したり、不可能になることがあり、その結果、不測の損失が発生する可能性があります。

【税制・法律等の変更リスク】

税制・法律又はその解釈等が将来変更され、実質的に不利益な影響を受ける可能性があります。

【金利変動リスク】

取引対象である通貨の金利が変動すること等により、保有するポジションのスワップポイントの受取額が減少、又は支払額が増加する可能性があります。ポジションを構成する2国間の金利水準が逆転した場合等には、それまでスワップポイントを受け取っていたポジションで支払いが発生する可能性もあります。また、一部の通貨においては、外国為替市場における当該通貨の需給関係等の影響を受けて、金利変動によらずにスワップポイントの増減や支払いの逆転が生じたり、場合によっては、金利の高い方の通貨の買いポジションでスワップポイントの支払いが生じる可能性があります。

【流動性リスク】

くりっく 365 で提示する為替レートには価格差（スプレッド）があります。くりっく 365 では、マーケットメイカーが買呼値及び売呼値を提示し、それに対してお客様が注文を発注して取引が成立する方式を取っています。状況（天変地異、戦争、政変あるいは為替相場の激変等）によって、マーケットメイカーによる買呼値や売呼値の安定的、連続的な提示が不可能または困難となることがあり、その結果、想定する価格で取引ができないなど、お客様にとって不測の損失が生じる可能性があります。また、一部の通貨において母国市場等の休業の場合には臨時に休場することがあります。更に、当該国の為替政策・規制による他通貨との交換停止や外国為替市場の閉鎖の措置がなされるなどの特殊な状況が生じた場合には、特定の通貨ペアの取引が不能となる可能性もあります。なお、平常時においても流動性の低い通貨の取引を行う場合には、希望する価格での取引ができないなどの不利益を被る可能性があります。

【コンバージョンリスク】

クロスカレンシー取引においては、決済が当該通貨ではなく円貨でなされることから、決済時に当該通貨の為替リスクの他に円との為替リスクがあります。

【ロスカットのリスク】

相場の変動により、有効比率が当社の定める基準以下となったことを当社が確認した場合、お客様の意思に関わらず、当社はおお客様の全ての未約定注文の取消及び全ての建玉の決済注文（ロスカット注文）の発注を行います。

ロスカットの場合でも、相場の急激な変動により損失の額が差し入れた証拠金の額を上回る可能性があります。

【情報リスク】

当社からご提供させていただく情報は、くりっく 365 の取引の参考としていただく資料です。その記載情報は、信頼性、正確性、完全性において保証されるものではありません。また、情報内容も予告なしに変更することもあります。

【その他】

取引所為替証拠金取引の売買は、クーリング・オフの対象とはなりません。取引所為替証拠金取引に関しましては、金融商品取引法第37条の6の規定の適用対象とはなりませんので、ご注意ください。

※くりっく 365 は、株式会社東京金融取引所の登録商標です。